無量光

第33号　　報恩講号

〒953-0076　新潟市西蒲区福井2013番地
真宗大谷派
岩見山　長福寺
TEL　(0256) 72-3700
FAX　(0256) 77-5048
発行人　岩見　一史

（右）報恩講法話講師の多田　誓　氏
（左）報恩講お待ち受け講演会講師の澁木　いずみ　氏

報恩講のご案内

十一月
十一日（月）

午前　十一時より
午後　三時頃まで
（どなたでもお参りいただけます）

場所　長福寺本堂

法話
刈羽村　専徳寺　御住職
多田　誓　師

親鸞聖人７６３年忌

皆様どうぞお参り下さい

○駐車場がございますが、お車の際はなるべく乗り合わせてお越しください。満車の際は旧庄屋佐藤家の駐車場をご利用下さい。
境内は講師・寺院専用となります。
○帰敬式を受式済の方は、略肩衣をお持ち下さい。

さくらの樹木葬
永代供養墓
「自然廟」

「自分の代で後継ぎがいなくなる」「お墓を維持する余裕がなくなった」「遠方でお墓の管理が難しい」など、お墓に対する悩みが増えています。その様な悩みや不安をお持ちの方の声を受けまして、寺が皆様に代わり永代に亘り管理させていただく、個別型樹木葬・合葬型の永代供養墓を建立しました。
生前申し込み、改葬（お墓じまい）も承ります。

永代使用料【個人】10万円
※管理料等はございません
（墓じまいは、ご相談にて）

【2名様】　50万円
【3名様】　60万円
【4名様】　70万円
※プレート代含む（彫刻料別途）

今後の行事予定

○十一月五～八日（火～金）
　三条別院お取り越し報恩講
○十一月十一日（月）
　長福寺報恩講
○十一月十九～二十日（火～水）
　赤倉ホテル有縁講と親鸞聖人ゆかりの地を訪ねる旅（案内同封）
○十一月二十一～二十八日（木～木）
　真宗本廟御正忌報恩講
○一月一日元旦（水）
　長福寺修正会・年始参り
○一月二～四日（木～土）
　年始配り・年始のお内仏参り
○一月下旬（予定）
　太子講
○三月十七日（月）
　春彼岸法要・永代経法要・「自然廟」法要

役員・世話方就退任のお知らせ

退任　赤鏥　荒井　修一　氏
就任　巻　松野　孝雄　氏

長い間、寺のためにご尽力いただき誠に有り難うございました。
これから長福寺の護持・発展のためにどうぞよろしくお願いいたします。

報恩講お勝手の働き

「峰岡」よろしくお願い致します

維持管理費・墓地管理費納入のお願い

毎年お願いしております維持管理費・墓地管理費を納入されてない方は、早めの納入をお願いいたします。お忘れかと存じますが今一度ご確認下さい。
事情のある方は寺までご相談下さい。

本堂使用できます

葬儀、法要など本堂で執り行うことができます。
お参り用椅子も用意がありますので、椅子に座って法要を勤められます。控室ではお茶道具を用意してありますので、法要前などにお使いいただけます。
葬儀の場合は寺までご相談下さい。

（生花一対・供物・蝋燭）
前もってご連絡いただければ、寺でご用意します。
１０，０００円
墓花も必要な場合　１２，０００円

あとがき

昨年十月の【無量光】で、新しく家族に加わった猫二匹と、先住おじいちゃん犬の事を書かせていただきました。小さい猫をあたたかく見守る日々は、そう長くは続かず、間もなく亡くなりました。
家族がいる部屋に一年、納骨をせず一緒に過ごしてきました。月の命日には子供も猫も並んでお参りをしてきました。この十月で一周忌。日々忙しく過ごす中で、愛犬の事を思い出さない日があるようになりました。ふと、そのことに気づいてしまい、寂しいというか、自分自身が残念というか、何とも言えない気持ちになりました。
目の前にいない存在なので、仕方がないのかもしれません。しかし、あの時のことやあの時の顔を、いつまでも忘れずにいたい。月のお参りは、愛犬のためにみんなで並んで座るので、自然と思い出話になります。そして、今の自分のことを報告して、「見ててね」と伝えます。不思議と元気が出るものです。
私たちには、目に見えるものだけでなく、体や心で感じるものがあります。風が吹いて草がゆれたら、枯葉が舞ったら、きっとそこには「見てるよ」という返事がかくれているのかなと思っています。

（坊守）

報恩講の次第

令和六年 十一月 十一日（月）

午前十一時　報恩講お待ち受け
講演会
終活応援セミナー～終活は気付いた時が始め時～
（澁木いずみ　氏）

午後零時十五分　お斎

午後一時　報恩講法話
（多田　誓　氏）

午後二時半　結願日中法要
（真宗大谷派御寺院参勤）

大勢の僧侶でお勤めします

法話講師の多田　誓氏

お花や荘厳も見どころ

セミナー講師の澁木いずみ氏

令和五年 報恩講懇志 寄進者名簿

（敬称略・順不同）

阿部　フユ　阿部　幸　阿部　孝一　阿部　博
阿部　良雄　荒井　ヒロ　荒井　修一　荒井　龍男
伊藤　一彦　伊藤　勇樹　岩見　勝弘　小熊　恒男
小熊弥須男　小柳　一朗　風間　典雄　金子　剛
金子　正守　川口　幸吉　木田　義一　後藤　昭彦
齋藤　裕子　諏訪　京子　多賀　龍衛　田中　秀子
常田　正義　寺島　拓朗　富澤　幸一　中川　正信
長津　孝一　成田　守　西村　吉彦　本間　温
本間　正　本間　俊介　本間　達也　本間　團作
本間　俊樹　松田　ウメ

（合計三十八名）

尊いお志し、誠にありがとうございました

（万が一掲載漏れがありましたら、寺までご連絡下さい）

報恩講　懇志のお願い

◇報恩講のお志し（懇志）をお願いいたします。
◇報恩講は皆様の御懇志によってつとまります。
◇懇志はお斎料ということではありません。法要に対するお布施ということです。
◇懇志袋を同封しております。（門信徒のみ）月参りにお伺いした際にお渡しくださるか、直接寺にお持ちいただいても構いません。
◇報恩講当日お参りの際、お持ちいただいても結構です。
◇事前に懇志をあげてくださった方は、当日他に包みものはいりません。
◇遠方の方は左記の口座をご利用下さい。（誠に恐れ入りますが、振込手数料はご負担下さい。）
◇あくまで任意のお気持ちです。金額も問いません。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○新潟かがやき農業協同組合　こしわ支店
（普）０２１３７４７
長福寺　代表役員　岩見一史

○ゆうちょ銀行
００５７０－４－５９７６２
長福寺

親鸞聖人伝（十三）
～仏恩報謝の歩み～

無碍の一道

『顕浄土真実教行証文類』は、専修念仏に対する聖道諸教団からの批判や、国家からの弾圧をうけとめ、本願念仏こそ真実の道であることをあきらかにされたものです。それは、時代をへだて、民族を超えた念仏者の歴史を、七高僧の伝統として掘りおこし、どのような人も、ともにひとしく、人間としての尊厳さを自分自身のなかに見いだして生きていくことができる道をひらかれた、人類の根本聖典というべきものであります。

さらに聖人は、その『顕浄土真実教行証文類』によってあきらかにされた広大無碍の世界を、『和讃』をもってうたわれ、お手紙をもって語りつくしていかれました。そこには、当時の人々を縁として、遠く未来世の人々にまで、まことの道を伝えていこうという、聖人のつよい願いが脈うっているのです。

そして当時、善鸞事件などにみられる幾多の異議や、鎌倉幕府の弾圧などによって動揺をつづけていた関東の御同朋たちは、その聖人のお言葉を力として本願念仏の一道を生きていかれたのです。

仏道に捧ぐ

弘長二年（一二六二）十一月、親鸞聖人はその命を仏道に捧げつくして、九十年の生涯を閉じられました。しかし、本願念仏に生きられた聖人の命は、如来大悲の恩徳を讃嘆した多くの言葉となって、今日なお生きつづけ、無数の念仏者を生みだしつづけているのです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　終わり

次回より、親鸞聖人が著述された『顕浄土真実教行証文類』の中から、聖人がその感銘を味わい深い詩（偈文）によって、後の世の私たちに伝え示してくださった「正信偈」を連載します。どうぞご覧ください。

報恩講　目標
各家庭から一人はお参りを
門信徒全員のおつとめを

◇報恩講は、親鸞聖人が出遇われた念仏の教えに、私たちが遇い得たことを歓び、その恩徳に報謝する真宗門徒にとって一番大切な御仏事です。
◇皆様とお寺がご縁をいただいたことも、一声の念仏も、みな親鸞聖人にその源があります。報恩講に参加して初めて浄土真宗の門徒です。
◇報恩講は真宗門徒にとって、年に一番大切な親鸞聖人のご法要です。門徒の皆様は是非お誘い合わせてお参りください。
◇生死の一大事、仏の教えにご縁を結んでください。

行事報告

8月 8日　盆参会・新盆法要
講師　今泉 温資　師

お仏供米の御礼

本堂の御本尊にお供えするお仏供米を、今年も秋の収穫を終えてさっそくお上げ下さり、誠に有り難うございます。厚く御礼申し上げます。